

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

令和5年3月

新潟医療福祉大学大学院

医療福祉学研究科

## 目次

I.	教職課程の現状及び特色	1
II.	基準領域ごとの自己点検評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	11
III.	今後の教職課程教育・運営の課題	17
IV.	「教職課程 自己点検・評価報告書」作成のプロセス	17
V.	現状基礎データ表	18

## I 教職課程の現状及び特色

### 1 現状

(1) 大学名：新潟医療福祉大学大学院 健康科学専攻（健康スポーツ学分野）  
中・高保健体育専修免許状取得コース

(2) 所在地：新潟県新潟市島見町 1398

(3) 学生数及び教員数（令和4年5月1日現在）

学生数：中・高保健体育専修免許状取得コース 11名

教員数：教職課程科目 担当 18名/健康スポーツ学分野全体 18名

### 2 特色

新潟医療福祉大学大学院（以下、本大学院）は、2005年4月に、「より優れた QOL サポーターの育成」を教育理念として掲げて開設された。2023年3月現在、修士課程4専攻5学位プログラムおよび博士後期課程1専攻1学位プログラムで構成されている。

修士課程健康科学専攻（健康スポーツ学分野）に設置されている健康科学学位プログラム（以下、本学位プログラム）では、本大学院の教育理念をもとに、高齢社会の急速な進展および仮想空間と現実空間の融合促進に伴って増大・多様化する健康に関するニーズに対応して、様々な領域の専門家が連携し、対象者支援の質的向上を推進するために、栄養・スポーツの分野を中心とした健康科学等に関する研究と教育を進めるとともに、人と人の連携を促進する人材を育成している。特に、本学位プログラムの教育課程の1つとして、中・高保健体育専修免許状取得コース（本コース）を設置し、「より優れた QOL サポーターとしての教師」の育成を進めている。

この教員育成課程は、学位プログラムにおける人材育成の一環として位置付けられている。従って、本大学院教員育成課程では、多様な価値観をもった子どもの成長を促す教育現場の抱える問題に対し、関係する人々の連携を促進し、その問題を根本から解決するとともに、学習者本位の教育を実現するために、持続的に成長し続けようとする実践力を有する教員を育成することを目指している。

このように、健康科学専攻（健康スポーツ学分野）の中・高保健体育専修免許状取得コースでは、専修免許取得に必要とされる「高度な教育研究能力」に加えて、多様な人々の連携を促進できる能力を身に付けることを目的にしている。そのために少人数の院生に対して手厚い学習環境での指導および実践を実施しており、この点が本コースの特色である。

## II 基準領域ごとの自己点検評価

### 1 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### (1) 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標

##### ①目的・目標、育成を目指す教師像について教職課程に関わる教職員が共通理解をしているか

###### [状況説明]

目的・目標、育成を目指す教師像については、本学位プログラムの教職課程に関わる教員において審議した結果をもとに、教職支援センター運営委員会、教育学生支援機構、研究科委員会および大学院委員会での審議を経て、学長が決定している。従って、教職課程に関わる教職員が共通理解をもって、「より優れた QOL サポーターとしての教師」を育成している。

###### [長所・特徴]

本コースで目指す「より優れた QOL サポーターとしての教師」の到達度評価は、年に 1 回実施される修士論文報告会、教職科目における大学院生の学びの軌跡である教職ポートフォリオ、大学院生生活動報告書、教職課程のシラバスや授業アンケートの結果を参考に、「より優れた QOL サポーターとしての教師」に関して自己点検・評価と共通理解を図っている。

###### <根拠となる資料・データ等>

1-1-①-1 各委員会の議事録	1-1-①-2 修士論文報告会
1-1-①-3 教職ポートフォリオ	1-1-①-4 大学院生生活動報告書
1-1-①-5 教職課程のシラバス	1-1-①-6 授業評価アンケート

##### ②教職課程教育を通して育まれるべき学習成果（ラーニング・アウトカム）が具体的に示されているか

###### [状況説明]

本コースにおいて育成を目指す教師像である「より優れた QOL サポーターとしての教師」は、「Society 5.0 における学校教育を先導する次世代 QOL サポーターとしての教師」という具体的な学習成果として示し、その到達までのプロセスを、ディプロマポリシー（DP）ルーブリック、学位論文ルーブリック、教職ポートフォリオおよび専修免許取得に関する科目の成績などで評価している。

###### [長所・特徴]

本コースでは、教職ポートフォリオにおいて学習プロセスを可視化するだけでなく、学位論文ルーブリックを用いることで、本学位プログラムの DP を踏まえた学習到達度を評価できる。

<根拠となる資料・データ等>

- 1-1-②-1 学位論文ルーブリック
- 1-1-②-2 教職ポートフォリオ
- 1-1-②-3 専修免許取得に関する科目の成績

③教職課程教育の目的・目標を学生に周知しているか

[状況説明]

教職課程履修者に対して、教師の専門性、専修免許状に必要な高度な教育研究能力および本大学院の目指す教師像について、教職課程履修者ガイダンス資料を用いて、オリエンテーションを実施し、理解を図っている。また、本大学院ホームページ内に教職課程に関する学内専用ページを作成し、教職課程教育の目的・目標に大学院生がいつでもアクセスできる環境を準備している。

[長所・特色]

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- 1-1-③-1 2022年度 教職課程履修者ガイダンス資料
- 1-1-③-2 2022年度 教職課程ホームページ (学内専用ページ)

(2) 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

①研究者教員と学校現場での優れた実践的経験を有する教員との協働体制を構築しているか

[状況説明]

研究者教員と実務家教員としての経歴をもつ教員が協力し、授業の運営や、採用試験対策、学校現場でのボランティアに対するフォローや報告会の開催などを行っている。

[長所・特色]

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- 1-2-①-1 ボランティア体験を語る会に関する資料
- 1-2-①-2 教職課程のシラバス
- 1-2-①-3 人物試験対策の実施報告書
- 1-2-①-4 授業評価アンケート

②教職課程の運営に関して全学組織（教職課程支援センターなど）と学部（学科）の教職課程で意思疎通を図っているか

〔状況説明〕

専修免許状については履修者が少ないため、大学院委員会が、学部の教職支援センター運営委員会と連携して運営を行っている。また本大学院の教職課程に関わる教職員の一定数が、全学組織（教職支援センター運営委員会）に所属しているため、健康科学専攻（健康スポーツ学分野）、学部（健康科学部健康スポーツ学科）および全学組織間での意思疎通は良好である。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- 1-2-②-1 ボランティア体験を語る会に関する資料
- 1-2-②-2 教職課程のシラバス
- 1-2-②-3 人物試験対策の実施報告書
- 1-2-②-4 授業評価アンケート

③教職課程の在り方を恒常的に自己点検・評価するために組織的に機能しているか

〔状況説明〕

学部（健康科学部）の教職課程では恒常的な自己点検・評価が行われているものの、本コースの教育課程では行われてこなかった。しかし、2022年度、本大学院関係組織（大学院委員会、研究科委員会、健康科学専攻（健康スポーツ学分野）教員組織）と教職関係組織（教職支援センター運営委員会）とが連携を図り、自己点検・評価をする体制を整備した。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- 1-2-③-1 7月健康スポーツ学科会議議事録
- 1-2-③-2 8月大学院委員会議事録
- 1-2-③-3 8月研究科委員会議事録

④教職課程の質的向上のためにFDやSDの取り組みを展開しているか

[状況説明]

本学教職課程では、一種免許状取得に関するFDやSDが行われてきたが、専修免許状取得に関連する内容は行われていなかった。2022年度より、本コースを含む大学院教育に関するFD・SDを積極的に開催している。

[長所・特色]

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- 1-2-④-1 大学院FD・SDのポスター

⑤教職課程に関わる情報公開を行っているか

[状況説明]

本大学院及び教職支援センターHPにおいて本自己点検評価報告書を公開している。

[長所・特色]

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- 1-2-⑤-1 大学院ホームページ情報公開欄
- 1-2-⑤-2 教職支援センターHP 大学院FD・SDのポスター

⑥教職課程教育を行う上での施設・設備が適切に整備されているか

[状況説明]

教職支援センターには、学校の教室を模した空間があり、黒板やモニターが設置されている。また電子黒板の設備も必要に応じて使用できる環境である。さらに、学内には、4つの体育館、屋内プール、ダンス場および3カ所のジム施設が整備されており、保健体育科教育

学、トレーニング科学および健康科学関係の授業や研究活動に加え、自主学習においても活用可能となっている。

〔長所・特色〕

上記に加え、学内LANや外部回線、大学院生が利用可能なプリンタ等が設置されている。また、大学院生室も設置されており、学習環境は整備されている。

<根拠となる資料・データ等>

1-2-⑥-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「教職支援センター」

[https://www.nuhw.ac.jp/teaching\\_career\\_support/](https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/)



## 2 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

### (1) 基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保

#### ①教職を担うにふさわしい学生を受け入れる履修上の基準を設定しているか

##### [状況説明]

本学位プログラムのアドミッションポリシー(AP)を踏まえ、本コース独自のAPを設定し、大学院生の受入れを実施している。そのため、高度専門職業人を目指す者が本コースを履修している。具体的には、学部卒業生については中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)を取得した後に教員を目指す者が、社会人については一種免許状を取得した現職教員が専修免許状の取得を希望するため、履修希望者は既に教職を担うにふさわしい基準を充たした大学院生を受け入れている。

##### [長所・特色]

特になし

##### <根拠となる資料・データ等>

2-1-①-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「大学院の構成・3ポリシー」

<https://www.nuhw.ac.jp/grad/about/composition.html>

#### ② 教職を担うにふさわしい学生の募集・選考等を実施しているか

##### [状況説明]

健康科学専攻ではAPにおいて、「より優れたQOLサポーター」の資質・能力として「STEPS」を掲げている。

S：健康科学に関する基礎的知識および国内外の情報を収集する力を有する。

T：異なる領域の考え方を理解し、専門家間の連携を促進しようとする強い意志を有する。

E：健康科学領域において、多様な価値観を尊重し、対象者を支援しようとする強い意志を有する。

P：健康科学に関する問題を多面的に認識し、解決するために必要な基礎的知識または経験を得ようとする強い意志を有する。

S：健康科学に関する学術・実践活動に高い関心を持ち、主体的・積極的に学ぶ態度を有する。

上記5つの項目に基づき、本大学院健康科学専攻(スポーツ学分野)健康科学学位プログラムの入学試験を実施している。さらに、専修免許状を取得するためには、既に一種免許状

を有している必要があることから、これから教職を担うにふさわしい者や既に教職を担っている大学院生の募集・選考等を実施している。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

2-1-②-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「大学院の構成・3ポリシー」

<https://www.nuhw.ac.jp/grad/about/composition.html>

③当該教職課程に即した適切な数の履修学生を受け入れているか

〔状況説明〕

2010年度～2021年度の本学位プログラム修了者のうち、専修免許状の取得者は中学校24名、高等学校29名となっている。大学院の専修免許状取得コースの開設以来、1年あたり中学校1.84名、高等学校2.23名と一貫して少人数教育を実施できており、適切な数の履修学生を受け入れていれている。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

2-1-①-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「大学院の構成・3ポリシー」

<https://www.nuhw.ac.jp/grad/about/composition.html>

(2) 基準項目2-2 教職へのキャリア支援

①学生の教職に対する意欲や適性を把握しているか

〔状況説明〕

入学後に専修免許状の取得を希望する学生に対して、オリエンテーションを行い、ポートフォリオも配布している。オリエンテーションとポートフォリオ作成、提出時の際の面談時において学生の意欲や適性について把握している。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

2-2-①-1 教職ポートフォリオ

②学生のニーズの把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っているか

[状況説明]

主研究指導教員と教職支援センター運営委員会とが連携して、個別に適時行っている。

[長所・特色]

特になし

<根拠となる資料・データ等>

2-2-②-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「教職支援センター」

[https://www.nuhw.ac.jp/teaching\\_career\\_support/](https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/)

2-2-②-2 2021年10月 大学院委員会資料

③学生の学習状況に応じたきめ細やかな指導を行っているか

[状況説明]

主研究指導教員と教職支援センター運営委員会とが連携して、個別に適時行っている

[長所・特色]

2022年度より、履修、学修および研究、その他の相談支援の強化を目的に、複数教員での指導体制を構築し、きめこまやかな指導を行っている。

<根拠となる資料・データ等>

2-2-③-1 2021年10月 大学院委員会資料

④教職入職に関する各種情報を適切に提供しているか

[状況説明]

入学後に専修免許状の取得を希望する学生に対してオリエンテーションを行い、情報の提供を行っている。また、一種免許状取得希望者向けの情報も適時提供しており、教職支援センターでも関連情報を取得できる環境が整っている。

[長所・特色]

特になし

<根拠となる資料・データ等>

2-2-④-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「教職支援センター」

[https://www.nuhw.ac.jp/teaching\\_career\\_support/](https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/)

⑤教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしているか

〔状況説明〕

一種免許状取得コースと合同の取組として、教職に就いている本学卒業生の話聞く機会である「現職教員の声を聴く会」が開催されている。それ以外には、主研究指導教員と教職支援センター運営委員会とが連携して、キャリア支援を個別に適宜行っている。

〔長所・特色〕

「現職教員の声を聴く会」では、新型コロナウイルス感染症対策という点もあり、オンライン会議システムを活用することで地理的、時間的な負担を軽減して現職教員に協力してもらい、収録した動画をオンデマンド型で配信している。

<根拠となる資料・データ等>

2-2-⑤-1 過去3年間の教員免許状取得状況（6件）

2-2-⑤-1 教職支援センター年報第5号（2020年度版）

⑥教職についている卒業生との協力体制を図っているか

〔状況説明〕

「現職教員の声を聴く会」や授業へのゲスト講師として、またニューズレターへの原稿などを通じて、教職に就いている卒業生と協力して、教員育成を進めている。

〔長所・特色〕

教職に就いている卒業生や、教職を志望する卒業生を対象とした「卒業生教職ネットワーク」という、メーリングリストによるOB・OGネットワークを構築している。

<根拠となる資料・データ等>

2-2-⑥-1 卒業生教職ネットワークのご案内

### 3 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

#### (1) 基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

①教職課程科目に限らず、修了単位30単位を活用して、建学の精神等、開放性の教員養成を行う大学としての特色ある独自性のある教員育成を行っているか

〔状況説明〕

教育職員専修免許状取得の場合の必要習得単位数は34単位としている。修士課程共通科目のうち健康科学特論2単位、分野専門科目のうち健康スポーツ学特論2単位、特別研究10単位を必修としている。また分野専門科目のうち、特論科目から8科目16単位以上、演習科目から1科目4単位以上を選択必修としている。これらのカリキュラムは、「より優れたQOLサポーター」を育成する本大学院の教育理念に基づき設定された本学位プログラムのカリキュラムポリシー（CP）および本コース独自のCPを基準に構成されている。そのため、保健体育科に関する学問領域に留まらず、健康科学に関する学問領域で用いられる研究方法を学ぶことができるため、専修免許状取得にふさわしい高度な教育研究能力を身に付けられる体制を確立している。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-1-①-1 2022年度 学生便覧・履修の手引き

②学科等の目的を踏まえ、「教科専門」「教科指導」「教職専門」の各科目・領域間の系統性の確保を図っているか

〔状況説明〕

本コースにおいては、「教科専門」「教科指導」「教職専門」といった科目分類を実施していないが、「共通科目」「健康科学専攻専門科目」という科目分類の中に、各領域に関わる科目を設置している。「共通科目」には、「教職専門」に位置づけられる科目（連携教育方法、教育学科目）が、「健康科学専攻専門科目」には、「教科専門」「教科指導」に位置づけられる科目（体育・スポーツおよび保健体育科に関する科目）が設置されており、本コースの大学院生は系統的に履修することが可能である。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-1-②-1 2022年度 カリキュラム

③学校や社会のニーズ、政策課題（例えば、教員育成指標参照）に対応した教育内容の工夫がなされているか

〔状況説明〕

学校や社会のニーズという点で、スポーツ教育学特論において、部活動の地域移行や地域スポーツクラブとの連携の在り方の内容や、生涯学習社会における学校と地域の協働、教師の在り方について扱っている。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-1-③-1 2022年度 シラバス

④学生自身によるアクティブ・ラーニングを促す工夫に取り組んでいるか

〔状況説明〕

本大学院の各授業は、少人数で大学院生の報告や討論が中心であること、また専門性の高い内容を取り扱うことから、大学院生は常に主体的な学びを行う状況にある。より積極的な学びを促す工夫については、大学院委員会や教職支援センター運営委員会でのFD・SDを実施している。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-1-④-1 大学院FD・SDのポスター

⑤学生間の協働による課題発見力・課題解決力、価値協働を育成する場を設定しているか

〔状況説明〕

複数の学生が受講する科目の一部においては、健康科学や教育に関する課題を思考し、解決に向けた方策を提案するといった内容を取り入れている。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-1-⑤-1 2022年度 シラバス

3-1-⑤-2 大学院 FD・SD のポスター

⑥コアカリキュラムに対応した教職課程のカリキュラムを提供しているか

〔状況説明〕

本大学院の専修免許状の教職課程科目は、教育職員免許法施行規則にある「大学が独自に設定する科目」のみで開講しているため、平成30年度申請の教職課程再課程認定において、教職課程のコアカリキュラムを適用していない。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-1-⑥-1 2022年度 カリキュラム

⑦「教職実践演習」の運用上の適切性、「履修カルテ」の活用場の工夫を図っているか

〔状況説明〕

専修免許状の教職課程においては教職実践演習を開講していない。また大学院では履修カルテとして教職ポートフォリオを運用している。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-1-⑦-1 履修カルテ

3-1-⑦-2 教職ポートフォリオ

⑧本来の対面授業のほかに、遠隔操作による授業（オンライン、オンデマンドなど）の工夫も取り入れているか

〔状況説明〕

本大学院では、仮想空間と現実空間を高度に融合したハイブリッド教育による教育効果を最大化することを目指し、「空間の枠を超えた学習環境」を整備している。本コースでは、全ての特論科目をオンライン形式（同時双方向型・オンデマンド）で実施しており、就労している社会人院生にとっても学びの機会や効果を最大限に拡大している。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-1-⑧-1 新潟医療福祉大学大学院ウェブサイト「夜間開講とメディア授業」

<https://www.nuhw.ac.jp/grad/support/decourse.html>

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

①教育の実際場面に学生が触れるフィールドを提供しているか

〔状況説明〕

学校現場での教職ボランティアを希望する学生に対する情報の提供を積極的に周知している。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-2-①-1 『教職支援センターニューズレター第8号』

[https://www.nuhw.ac.jp/teaching\\_career\\_support/pdf/newsletter\\_no8.pdf](https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/pdf/newsletter_no8.pdf)

②取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する場を設定しているか

〔状況説明〕

今のところ特に設定していない。



〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-2-②-1 2022年度 カリキュラム

③様々な体験活動（ボランティア、インターンシップ、介護等体験等）とその省察による往還の機会を提供しているか

〔状況説明〕

「ボランティア体験を語る会」を年に2回開催しており、その場が省察や教員からの助言を受ける機会を設定している。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-2-③-1 『教職支援センターニューズレター第8号』

[https://www.nuhw.ac.jp/teaching\\_career\\_support/pdf/newsletter\\_no8.pdf](https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/pdf/newsletter_no8.pdf)

④様々な子どもの発達段階に関する教育実践的な情報を提供しているか

〔状況説明〕

スポーツ教育学特論、保健体育科教育学特論の授業内にて提供している。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-2-④-1 2022年度 シラバス

⑤教育委員会との組織的な連携協力体制を構築しているか

〔状況説明〕

新潟県教育委員会・新潟県内私立大学教員養成連絡協議会や、新潟県教育委員会・新潟市内私立大学教員養成連絡協議会を、本学を会場に隔年で開催し、教育委員会と教員の養成、

採用、研修の在り方について情報交換や連携を進めている。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-2-⑤-1 「新潟市教育委員会・新潟県内私立大学 教員養成連絡協議会 開催報告」  
教職支援センター年報第6号. p.60-61

[https://www.nuhw.ac.jp/teaching\\_career\\_support/pdf/annual\\_2021.pdf](https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/pdf/annual_2021.pdf)

⑥教育実習の指定校（協力校）との連携を図っているか

〔状況説明〕

今のところ連携していない

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

⑦ 教育実習に臨む上での必要な履修要件を設定しているか

〔状況説明〕

本大学院の専修免許取得コースにおいては、取得の際に教育実習が法令上、課されていないことから、現在のところ教育実習の科目そのものを開設していない。

〔長所・特色〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-2-⑦-1 2022年度 カリキュラム

### Ⅲ 今後の教職課程教育・運営の課題

本大学院は、2005年の開設以来、「より優れた QOL サポーターの育成」を教育理念として掲げてきた。また、2021年度には、より優れた QOL サポーターを、『仮想空間と現実空間を高度に融合させるとともに、多種多様なスペシャリストが自らの能力を最大限発揮できる環境を構築することで、保健・医療・福祉・スポーツ・教育領域に関わる学術・社会における課題解決と持続的な発展を先導し、誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会を維持・発展させる人材』（以下、Society 5.0 における共生社会を先導する次世代 QOL サポーター）と定義して、教員を含めた人材育成を進めている。

健康科学専攻（健康スポーツ学分野）健康科学学位プログラムの中・高保健体育専修免許状取得コースでは、専修免許取得に必要とされる「高度な教育研究能力を備えた教員」の育成を目的としており、手厚い学習環境での指導および実践を特色としている。

「基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」や、「基準項目 2-2 教職へのキャリア支援」に関しては、学部の教職課程と連携することにより、協働的な取組が行われている。

一方で、「基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施」について、特に学科等の目的を踏まえ、「教科専門」「教科指導」「教職専門」の各科目・領域間の系統性を確保する点は、今後意識して編成していく必要がある。また、大学院の教職課程として実践の質を高める FD の機会の拡充、そして「基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携」という点において、本自己評価を通じて、改善できる余地が明らかになったため、今後検討を進めていく。

### Ⅳ 「教職課程 自己点検・成果報告書」作成のプロセス

大学院委員会およびその代表である研究科長は、大学合同教授会、自己点検・自己評価委員会のメンバーとして、教職課程の運用について教職支援センター運営委員会（学部・大学院）と連携し活動を行う。

教職支援センター運営委員会にて、教職課程の自己点検・成果報告書を作成し、学科会議（健康科学学位プログラム教職課程全教員が参集する会議）の審議・承認を経る。その後、教育・学生支援機構および大学院委員会にて審議し、承認を得た後、学長の承認を受ける。

V 現状基礎データ票

令和4年5月1日現在

設置者 学校法人 新潟総合学園					
大学院・専攻科名称 新潟医療福祉大学大学院 健康科学専攻健康スポーツ学分野					
専攻科やコースの名称（必要な場合） 中・高保健体育専修免許状取得コース					
1 修了者数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
① 昨年度修了者数		健康科学専攻健康スポーツ学分野 7名 計 7名			
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)		健康科学専攻健康スポーツ学分野 4名 計 4名			
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も1と数える)		健康科学専攻健康スポーツ学分野 2名 計 2名			
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)		健康科学専攻健康スポーツ学分野 0名 計 0名			
④のうち、正規採用者数		健康科学専攻健康スポーツ学分野 0名 計 0名			
④のうち、臨時的任用者数		健康科学専攻健康スポーツ学分野 0名 計 0名			
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ( )
教員数	健康科学部 健康スポーツ学 分野 7名 計 7名	健康科学部 健康スポーツ学 分野 4名 計 4名	健康科学部 健康スポーツ学 分野 7名 計 7名	健康科学部 健康スポーツ学 分野 0名 計 0名	
相談員・支援員など専門職員数 0名					